

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200042		
法人名	有限会社シャトル		
事業所名	グループホームことおか		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字千刈田255-1		
自己評価作成日	平成24年12月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1-1		
訪問調査日	平成25年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様を温かく迎え、仲間意識が高くお互いを思いやり支え合って生活している利用者様。その利用者様と明るいスタッフとの相互作用でホーム全体が笑顔で包まれている。畑作物の収穫に喜びそれを利用した保存食作り。隣接したショートステイとの連携もあり緊急時等などの対応も充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「笑顔で創り上げる心の和」が、そのまま利用者と職員の生活に浸透しており、利用者の穏やかな表情と優しい笑顔からも安定した生活が伺える。管理者・職員間での意思疎通がよくできており、提供するサービスの質の向上のため、共に取り組んでいる。利用者は、天気の良い日などに事業所周辺の散歩をし、季節の移り変わりを感じながら気分転換を図っている。利用者の希望により、出身小学校や以前の勤務先を訪問し、思い出のひとつを過ごすこともある。利用者の状況に応じて適切な医療が受けられるよう、協力医等との連携を図り、支援に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	立ち上げ時に創設した基本理念がある。又事業所理念もあり、理念の中の『笑顔が絶えないホーム』にしたい為理念を変えることなく目につく所に張り出している。	管理者、職員は理念を理解し、毎日の支援の中で忠実に実行している。理念は、誰からでもはっきり見えるよう大きく掲示されており、職員は出勤時、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他ホームとの交流の為、ボランティアを招いた時や近隣のホームを招待した時は歌や踊り、読み聞かせ等利用者と共に楽しみながら交流している。	散歩に出かけて近所の方と挨拶を交わしたり、花を頂くこともある。子供たちとの交流の他、ボランティアが訪問して歌や踊りを披露してくれるほか、町民祭に参加するなど、地域との良好な関係が保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	・交流会や夏祭り等で関わりを持たせていただいている ・町民祭への参加時や通学児童のトイレ提供等中高生のボランティアの受け入れを積極的に進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでは運営推進会議の開催も少なかったのですが、この12月に本格的に1回／2ヶ月開催する手はずが整いました。建設的なご意見をいただき、今後のサービス改善に繋げたい。	地域や行政に働きかけて運営推進会議が開催され、不確定だった委員の委嘱や、事業所の活動・現状の報告、その他委員からの意見や情報交換などが行われている。議事録も詳細に記録されている。	今後は定期的な会議の開催を通じて、利用者・家族のほか、地域・行政から意見や要望を得るなど、情報交換の機会を確保していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会や支援センターの方々には利用者の状況や空室状況等提供し、貴重な情報をいただいている。入所後も折々の様子を報告し、その都度貴重なご意見をいただき日々のお世話に役立てている。	課題や疑問などがある時は、包括支援センターや町役場担当部署へその都度問い合わせたり、出向いて相談している。今後、町役場担当者や、社会福祉協議会職員が運営推進会議の委員として参加し、情報交換をしていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠は21時から翌朝6時半までとしている。 ・身体拘束＝過去に1回だけそのような事例があったが、その際はご家族より同意書をいただき、その状況を記録として残している(尚、その行為は最低限としている)	現在身体拘束に該当する事例はない。施錠は夜間のみで、日中施錠をせず見守り支援している。全職員は内部研修などで身体拘束による弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・『虐待の防止』に関する研修に参加し、職員会議や回覧板を通して『伝達研修』の徹底に努めている。 ・無断外出の際は行動を制限する事なく“見守りから”を合言葉にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の半数がこの制度を活用しており“学ぶ機会は是非必要”との認識で関係機関が発行している冊子等を活用している。定期的に訪問して下さる支援員と利用者の関係を大切にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族にとっては馴染みの薄い分野なので理解・納得していただけるまで時間をかけて十分な説明をするよう心掛けている。尚、改訂等が生じた場合も同様の取り扱いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や関係者から寄せられたご意見や要望等は“業務日誌”に記載し職員間で情報を共有している。その内容を毎月発行する“お便り”に掲載したり、運営推進会議でも報告、繁荣させている。	毎日の生活の中で、利用者の意見や要望を聞き取るようにしている。家族へは意見箱の設置の他、面会時などに利用者の状況報告をとおして積極的に関わりを持ち、意見や要望を汲み取る努力をしている。事業所便りに、利用者個々の近況を付け加え、家族へ送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議で忌憚のない意見を出していた ・毎年実施している個人アンケートで意見や提案を出してもらっている ・個人面談の機会を利用している。	管理者は毎月開催される職員会議をとおして、できる限り職員の意見を聞くように努力している。また、代表者、管理者は職員に「個人アンケート」で異動の希望のほか、運営に関する意見などを出してもらい、反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や昇格、働きやすい環境等についても意見や希望等を出しやすい雰囲気づくりに努めており、職員⇒管理者へ、管理者⇒施設長へ…とつないでいる。更には異動後も本人の(心身の)状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格の有無に関わらず3年を目途に職員へ登用し、覇気を高めている。・資格取得の為にシフト変更にも対応している。・関係機関が実施している各種研修や講習への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会が主催している研修・講習に参加し交流を深めている。・(有)シャトルが運営している3施設合同の研修会や他施設との交流研修等の際にも相互交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・関係機関から情報を入手、それに基づいた事前訪問やホームの見学参加を呼びかけている。・本人や家族、ケアマネジャー等も含めて十分な話し合いを尽くし、不安のない状況で入所していただく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の想いを十分に受け止めることから始める。その上で個々の困っていることや問題点等じっくり話し合うことで解決策を模索していく。・ご家族から安心していただけるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・畑作物の植え付けから管理、収穫、下ごしらえ等共同作業で行っている。・旬の山菜や果実等を利用した保存食や郷土料理に関するアドバイスは欠かせない存在。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・“明るく楽しい雰囲気づくり”に努めている。・面会時等は、利用者の状況報告を行い“家族・職員・関係者全員で支えてくれている事を実感していただけるような対応”を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域の行事などに参加し、繋がりを大事にしている。・受診時等知人や友人等との会話を楽しみ、慣れ親しんだ関係が途切れないようにしている。	入居前からの友人等が事業所を訪れた際は、ゆっくり歓談してもらえるよう配慮している。また、外出では利用者の出身小学校や、以前の勤め先などをドライブコースに盛り込むこともある。馴染みの理美容室や主治医とのつながりも大切にし、本人が培ってきた人や社会との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日常会話やレクレーションの際にも目配りを怠らないようにしている。・利用者同士の関係が悪くならないように、個性や特技等を活かしながら良い関係をつくり、維持できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後もご家族との関係を大事にし、声を掛けたり利用者が作った彼岸花を届けたり(お墓に供えたり…)と関係を断ち切らないようにしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・集団の中で、数人の世間話で、そして個人との日常会話等から本人の思いを引き出し、職員会議やカンファレンスで検討し、ケアプランに反映させ、本人の意向を尊重するようにしている。	利用者との日常の会話や、居室などで一対一になった時の会話から、思いや意向を確認している。日々の支援の中から得られた情報は、申し送りやカンファレンスで話し合い、共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族や面会者から生活歴や本人が得意とする事等々の情報を得ながら“生きがい”や“張り合い”につながるようなものを見出していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動や表情等から“ちょっとした変化”を見逃さないように注意深く観察し、職員間で情報交換しながら適時・適切な対応をする事で現状の維持引いては心身のレベル低下の防止に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況をより細かく把握する為担当を決めている。他職員は元よりご家族や関係者のアドバイスを参考にしながら介護計画を作成している。“現状に即したタイムリーな計画作成”に努めている。	利用者一人ひとりのモニタリングには、全ての職員が参加している。その上で、介護支援専門員・居室担当職員を中心に、利用者や家族から得た情報をもとにケアカンファレンスで話し合い、実情に即した介護計画を作成している。変化があった際は、随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌は“状況が分かるような書き方に”に努めると同時に、実践の結果や気づき・更なる工夫等も同時に記入するようにしている。何よりも“職員間の情報を共有”をモットーにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々や中高生のボランティア等を積極的に受け入れている。又町民祭に出品したり、他施設のイベントに参加し、関わりを持つことで“より楽しく過ごせる時間をより多く確保出来る様な取り組み”を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・利用者の希望を大切に、入所前からのかかりつけ医や薬局等と連携し、良好な関係を築き・保つことが出来ている。	多くの利用者が事業所の協力医をかかりつけ医としており、週2回の往診や、予防接種、血液検査など、健康管理を含め、連携が図られている。専門医などへの通院の支援は事業所で行っている。家族への受診結果などの報告は、電話や「家族との連絡帳」で行い、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/週の主治医が往診(看護師同行)の際に状況を報告、健康管理についても助言をいただいております。急変時にも対応可能。又、隣接しているショートステイの看護師からも応援していただける体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時面会の折、医療関係者との連絡を密にし、退院から帰ホームへスムーズに移行出来る様にしている。そうすることで利用者・ご家族共に不安なく治療に専念出来る。又、遠方に住むご家族へも見舞いの都度状況報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合はご家族や主治医と相談し医療機関に紹介している。・看護師が常駐していないことを契約時に説明し了解を得ている。・ご家族の希望があれば主治医との緊密な連携の元で看取り近くまで対応する準備はある。	重度化や身体症状の悪化等で医療行為が必要な場合は、かかりつけ医や家族と話し合いながら、関係機関と連携を図り、対応の検討に結びつけていくことにしている。	家族への説明や同意を得る際の資料となること等から、重度化等に係る支援の方針等を文書として整備していくことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救命講習を受講し更新も続けている。・AED設置の隣接のショートステイとも連携をとり、応急処置の対応を可能にしている。・数回/年に数回(避難訓練の際等に)職員会議等で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災のための自家発電機を設置。・夜間を想定した防火訓練を実施。・訓練実施後利用者も交えて反省会を行い次回の訓練に備えている。	年2回、日中・夜間想定で消防署立会いのもと、隣接する事業所と合同で避難訓練を実施している。消火器、火災報知器、スプリンクラーの設置のほか非常時の食料品・介護用品の備蓄や自家発電機の配備をしている。地域からの協力・援助は運営推進委員会でも話題になっており、進行中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの性格や個性を把握し、プライバシーを損ねないように配慮しながら、その人に合ったさりげない言葉かけや対応を心がけている。	職員は常に「笑顔」で接し、利用者一人ひとりを尊重する態度や言葉掛けに留意している。尿意の確認などは小声で声掛けするなど、さりげないケアを心掛けている。また、プライバシーの尊重と接遇マナーについて、内部研修などで徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く表出したり、決定する事が出来ない場合でも、じっと待ってみたり、ヒントを与えたり、促したりすることで自己決定を支援している。“利用者と職員の信頼関係”が根底にある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣を尊重し、集団生活のなかにあっても、個人の生活のペースを守れるよう支援している(時には我が儘を言ってもいいのでは…の思いから)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	・衣類の購入は、買い物に同行し本人から選んでいただくようにしている。・理美容に関しては、本人やご家族の意向をふまえながら身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ホームの畑で採れた野菜を下ごしらえしたり、調理方法を教えていただきならメニューに反映させている。・(シヤトル)三事業所合同のバイキング等でいつもと違った形式で食事を楽しんでいる。	利用者との普段の会話から、食べたいものを確認して献立を作成しており、隣接の事業所の栄養士に相談しながら栄養管理に努めている。食卓への箸の配布や、テーブル拭き、おしぼりの準備などは、できる範囲で利用者が行っている。職員は利用者と同じ食卓を囲み、会話をしながら食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食欲がない場合は、本人の嗜好に合った食べ物を提供したり栄養補助食品も導入している。・隣接するショートステイの栄養士による指導も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、利用者の力量に応じて見守りや一部介助にて義歯洗浄、うがい、舌苔の観察も注意深く行っている。・歯ブラシ、コップの取り扱いにも注意しながら口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の自立に向け毎日細かく記録し個人の排泄パターンを把握、節目節目でさりげなく声がけをしたりトイレ誘導を行うことで排泄用品の使用を最小限にしている。	自立した排泄を目指し、排泄チェック表などで利用者個々の行動パターンを把握し、声掛けのタイミングを計りながら支援している。夜間はポータブルトイレを使用するなど、利用者に合わせ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の記録を参考にしながら運動・食事・水分補給等に努めている。・なるべく摂取していただけるように趣向を凝らして手作りの飲み物を用意したり、種類を多くしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はあるが、健康状態や希望があればいつでも入浴可能な体制をとっている(一人でゆっくりお風呂を楽しみたいという方にはそのように対応した例もある)	入浴は月・水・土の午前・午後の週3回となっているが、希望があればいつでも入浴可能である。毎日のバイタルチェックや利用者の心身の状態に合わせて、ミカン・バラ風呂など、ゆっくりのんびり入浴を楽しんでもらえるよう支援している。入浴ができない場合は清拭等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中のレクリエーションや体操等で夜間の快眠を誘うようにしている。・昼食後13時から1時間程休んでいただいている。・不眠の訴えに関しては医師の処方内容に従っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に内服薬の処方内容がひと目でわかるようなリストを供えている。服薬の変更があった場合は即更新すると同時に申し送り時や口頭で周知徹底している。症状の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・毎日の生活の中で、関心のあること、出来ること、好きなこと等個々人の能力を見出し役割分担をしているが、そこに格差が出ないように配慮している。・人の役に立っていることで満足感や張り合いを感じている様子が窺われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	・“できる限り全員で外出”をモットーにしている。・時には本人の希望するコースをドライブしたり、山菜採りを楽しんだり、母校を眺めたり、記憶に止めている場所でお茶したり…と思いいに楽しんでいる。近隣のお宅でお花を見たり摘んだり…。	多くの利用者はドライブを好んでおり、回転寿司や海、植物園、山菜採りなどにも出掛けしている。また、利用者の希望で思い出の場所等に外出することもある。天気の良い日は、事業所の周りを散歩したり、道路向かいにある東屋で隣接の事業所の利用者とお茶を飲んだりしているほか、畑仕事などで気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・“自分の気持ちで買物をし、自分でお金を払う”体験をしている。・自己管理のできる方は多少の小銭を所持しているが、ご家族了解のもと(ホーム立替で)職員が同行し買い物を楽しむことが出来る支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をかけることや取次ぎにはいつでも対応している。・年賀状や暑中見舞いはなるべく自筆にて書いていただき、職員がコメントを添えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的な雰囲気を出すよう配慮している。・季節を先取りした創作物で壁面を飾ったり、行事で撮った思い出の写真を貼ったり、家族の写真を貼ったりして目で楽しんでいる。・生活臭に関しては消臭剤や芳香剤等適切に使用している。	共用空間は常に衛生面に配慮しており、快適な居住環境となるよう心掛けている。玄関やホール・廊下の壁などには、行事の写真や、利用者の創作品が貼られている。ソファーに座り、職員・利用者同士で話をするなど、思い思いに過ごせる環境作りができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	・ソファで語り合ったり・テーブル席で外の景色を眺めたり・畑を見渡せる場所にしたり・ベランダに出たり・玄関前のベンチで通行人や車を見たり…と自由に過ごせる場所と空間に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのものを使っていただき安心かつ居心地良く過ごせるように配慮している。中には仏壇や位牌、遺影を持参し、朝・晩に手を合わせている方もおられます。	居室の入り口には、自筆の名前が掛けられている。備え付けのロッカーの他は、ベッドやタンス、テレビのほか、家族の写真、仏壇などが持ち込まれ、利用者の好みに合わせた居室となっている。職員は利用者のこれまでの生活の雰囲気が保たれるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室等は場所を表示して混乱のないようにし、声かけや見守りをしながら自立に向けて支援している。自分で出来ることをしていただきながらも体調や力量に応じた手助けを怠らない。		